

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	雪ぼうし 1Fユニット	評価実施年月日	平成19年8月15日
評価実施構成員氏名	宮川 裕乃 松尾 治		
記録者氏名	松尾 治	記録年月日	平成19年8月28日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念に沿って利用者様が、その人らしく過ごすことができ、生活空間や人間関係が広がって、地域で心豊かに生活できるよう心がけている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>朝の申し送り時に復唱し、スタッフ各自のロッカーにも貼り、理念の周知を徹底している。また、会議やケアカン時、理念に基づいたケアが実践できるよう、話し合い意志の統一を図っている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関と各ユニットに明示し、御家族には入居時説明している。また、運営推進会議や、地域の行事に参加し、地域の人々に啓蒙を心がけている。</p>	○	<p>地域の方には、徐々に理解していただいているが、今後も積極的に関わりを持ち、理解してもらえるよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等外出する機会には、隣近所の方にも声をかけ、ホームのことを理解していただけるよう努めている。また、近隣の喫茶店にも出かけるなど、付き合いの範囲を広げている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に入会しており、地域での行事の案内が来た際は、積極的に参加している。また、当グループホームの開設3周年行事に、地域の方を招待し交流に努めている。</p>	○	<p>3周年行事が成功したので、これを機会にホームでの行事には、もっと参加していただけるよう働きかけていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域住民を対象とした講演会を予定しており、地域の方々に、ホームの姿をより理解していただけるよう取り組んでいる。また、実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価において、現状の課題を抽出し、会議では外部評価について報告し、改善に向けた取り組みを行い、ケアの質の向上に努めている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を定期開催し、利用者の状況や生活の様子、行事等の活動報告を行っている。会議で出た意見等は、ホームに持ち帰り、サービスの向上につなげるよう努めている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム担当者会議で、市の担当者との連携を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加することで、権利擁護についての理解を深めている。また、成年後見制度については、一部入居者様が活用している。	○	権利擁護について、理解が不足しているので、もっと学ぶ機会を作っていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、会議で報告し職員全体で意識して防止に努めている。言葉遣いも含め虐待につながる行為が行われてないか、スタッフ間で確認し防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、その内容を家族に説明し、質問を受けながら理解・納得を図り、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の会話の中で、利用者が思っている意見や不満、苦情を汲み取ることが出来るよう意識している。また、申し送り時や会議の際に話し合い、運営に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月のハガキにて近況を報告し、金銭管理は月ごとに納税表をPCで管理し、ハガキ同様郵送し確認していただいている。職員の異動については、3ヶ月ごとに発行している便りにて報告し、面会時にもその旨伝えている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>3ヶ月ごとに発行している便りに、苦情受付のFAX番号を掲載し、常時受付できる体制を取っている。家族から意見等が合った場合には、会議などで話し合いを行い、運営に反映させている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りや会議において、職員の意見を聞く機会を設けている。ユニットリーダーは、職員から意見や提案があった場合、主任や管理者に報告し会議等で反映できるようにしている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者や家族の状況の変化・要望に応じられるよう、会議時に勤務の予定を組むようにしている。また、急遽人員が必要になっても、随時勤務の調整に努めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>スタッフの異動は、必要最小限にしている。異動や離職がある場合には、不安にならないよう、状況に応じて説明している。また、新しくユニットに勤務する場合は、ゆっくと時間をかけなじめるよう指導している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修参加は、職員の希望も聞きながら積極的に行っており、会議にて研修報告をしている。また、法人内の研修会にも参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	サービスネットワークが出来ており、連携・情報交換や勉強会を行っている。また、事業者はグループホーム協議会の理事や、石狩ブロックの事務局を担い、各研修などに努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	フロア会議等で出た悩みや問題点、ストレスをスタッフ⇒リーダー⇒管理者⇒法人担当者⇒運営者の流れで吸上げ、問題点の把握・改善を迅速にフィードバックするよう勤めている。また定期的に懇親会を行い意見交換の場(ストレスの排出)を設けている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	一部の職員に人事考課を行い、具体的な目標を持って勤務している。また、スタッフの意見を聞き、それをケアに反映させることで、自信や向上心をもって働けるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に際し、要望等を聞く機会を設け、本人の思いをよく聴き、その要望に応えられるよう、スタッフ間での意思統一を図っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に際し、家族の思いをよく聴く機会を設け、その思いを受け止めるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談内容については都度お聞きし、本人と家族がまず何を必要としているのかを把握し、対応するようにしている。早急に対応困難な場合には、柔軟に対応している。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族と共に事前に来訪していただき、ホームの雰囲気を知っていただいたり、入居者の方にも説明しながら、徐々に場の雰囲気に馴染んでいただけるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共に楽しく生活できるよう、コミュニケーションから個別に対応し、共に笑ったり悩んだりしている。また、一緒に台所に立ち、調理の準備や片づけをしている。また、掃除も一緒にしている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族との関係構築に努め、相互に意見を言い合える関係作りを築いている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>利用者と家族の関係を理解し、面会時などには声をかけ、良好な関係が継続できるよう、対応に努めている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの人との関係が途切れないように、時には連絡している。また、馴染みの美容室を利用されたり、馴染みの食堂に行かれたりしている。</p>	○	<p>今まで以上に、馴染みの人との交流が増えるよう支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同志の関係を見守り、時にはスタッフが間に入り、関わりが取れる環境を整えるようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された場合は、お見舞いに行ったり、記念の行事があるときには、家族にお便りで案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者に日頃の思いや、希望を聞くように努め、伝えることが困難な方は、スタッフ間で検討し、その人の思いに近づけるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居に際し、フェイスシートも含め個々の情報を捕らえ、ケアに連動させている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケア記録に一日の過ごし方を詳しく記載し、ケアプランにつなげながら現状把握に努めている。また、日々の職員の気づきを大切に、その気づきをケアに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の希望を聞き、それを反映できるプラン作成に努め、更新時には会議において、職員の意見を取りいれながらプラン立案につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じてモニタリングを実施し、評価を行うと共に、著変があった場合にはプランの見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、個別のチェック表を用いて、いつでも確認できるようにしている。また、ケア記録に記載し、ケアプランナンバーも記入、適切にプランが実行されているか確認し、プランの見直しにも活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同法人の病院・老健と連携しながら、本人と家族の要望にも配慮し、状況の変化に応じながら支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	十分とはいえないが、ボランティアの協力や、図書館などの教育機関に、ご本人の意向に応じて支援している。	○	今後、地域資源をもっと活用していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要性があれば、他のサービス事業者やケアマネジャーと連携を取り、他のサービス利用の支援をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議にて関係が強化され、相談協力が得られるようになった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護師と併設病院の医師・看護師と連携が取れており、情報を共有し健康管理を行っている。また、往診や必要時には受診するようにしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>併設の病院の医師が、利用者の状態をよく理解しており、適切な指示・助言をもらい診断・治療が受けられるように支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師が常勤で勤務しており、併設病院の看護師と相談しながら、利用者の健康管理が出来る。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時、毎日面会するようにして、安心していただいている。病院関係者とは情報交換等の連携が取れており、早期退院できるよう支援している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居者の状態の変化があるごとに家族に連絡し、受診や往診時に医師と話し合い、スタッフ間でも情報を共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に関しては、併設病院のかかりつけの医師と相談し、事業所で出来ることはチームとしての支援に取り組んでいる。また、今後の変化に備えて、検討や準備は常勤の看護師が中心となって、関係者と調整している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移られたりする時は、アセスメント・ケアプラン・看護添書を早めに準備し、ケア関係者で十分な話し合いを行い、情報交換を行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉かけや対応には日頃から意識し、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないように注意している。態度や表情も意識するようにしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>外出や入浴時など、その方に合わせて、分かりやすく説明し、納得・自己決定できるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々のペースに合わせ、起床の時間や入浴時間など、希望に沿った生活が出来るよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装に関しては、本人が選んでいるが、汚れや重ね着等で援助が必要な場合、誇りやプライバシーに配慮しながら支援している。理美容に関しては、馴染みの美容室を利用される方もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>日頃の会話の中で、食べたいものがないか希望を聞いたり、スタッフとの買い物に付き添っていただき、食材と一緒に選んだりしていただいている。また、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の好みを把握し、希望の時間や行事などで、楽しむことが出来るよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握できている。また、日中はオムツの使用はせず、その日の体調も考慮してトイレ誘導を行い、失禁の減少に努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望に沿った入浴を行っている。また、ご自分で判断できない方は、入浴の間隔を考慮し、バランスよく入浴できるよう配慮している。入浴に応じられない方には、時間を変えたり、普段の言葉がけの中できっかけを作ったりして対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の状況に応じ、休息できるよう声がけしている。夜間眠れない時には、スタッフが話を聞いたりして、安心して休んでいただける雰囲気作りに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の生活歴を踏まえ、役割を持って生活できるよう、台所の後片付けや、庭や畑の仕事など、やり方を教えていただきながら、スタッフと一緒にやっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理が出来る方は、少額のお金を持っていただいている。また、買い物へ行く機会をつくり、自分で支払いできるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎月行事計画を立てて外出をしている。また、希望にそってホーム周辺の散歩や、買い物に行ったりしている。希望されない方にも、気分転換に散歩しましょうと声がけしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望を聞いて、行事計画に反映させている。家族にも連絡し、協力を得ながら行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や大切な人に連絡が取りたいと希望があった場合、電話が出来るよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人等が気兼ねなく面会にこられるよう、スタッフの挨拶も含め雰囲気配慮している。また、居室やソファへご案内し、お茶を飲みながらゆっくりと過ごすことが出来るよう、環境作りにも配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、日頃の言葉がけから注意し、意識を高めている。また、研修会にも参加し、会議で報告しスタッフ全体で理解しケアしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者に危険が及ばないように、スタッフの見守りで行動を察知し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は業務をしながら、利用者の状況をさりげなく観察し、所在の確認と安全に配慮している。居室やトイレなどに入っている場合も、プライバシーに配慮し安産確認している。夜間は、状況が把握しやすい位置で業務を行い、見守りしている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>個々の状態に合わせ、物品のお預かりをしている。裁縫道具を自己管理されている方もおり、危険のないよう声がけしている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>各種マニュアルを作成しており、対応できるようにしている。また、ひやりはつと報告書を提出し、その場で対応策を話し合い、会議で再度検討し事故防止に努めている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルがあり、初期対応の訓練はそのつど行っている。</p>	○	<p>全てのスタッフが対応できるよう、救命講習を行っていく。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防訓練は定期的実施している。日頃から、災害時の避難経路や手段の心構えについて指導しており、意識して業務している。また、運営推進会議にて、町内会の皆様に協力を呼びかけている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族の面会時やケアプランの説明時に、今後起こりうるリスクについて、説明時理解していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックと体調確認を行い、異常があれば直ちに看護師に報告し、必要であれば受診している。また、日頃の見守り・観察の中で気付いたことなど、職員が情報を共有できるよう、スタッフ間のコミュニケーションも図っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容や副作用について、いつでも確認できるよう、処方箋をファイルしている。内服に変更があった場合には、体調や症状に注意を払い、記録に残すようにしている。また、服薬時は確実に飲まれたか、最後まで確認するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	野菜や果物で、繊維質の多いものや、乳製品をメニューに取り入れ、便秘解消に努めている。また、体操や散歩など身体を動かす機会を作っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き・義歯洗浄は、声かけと見守りで行っている。また、困難な方は介助させていただいている。夜間はお預かりして、洗浄液につける対応もしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は偏りがないよう、バランスよくメニューを考えている。また、一人ひとりの食べる量も考え、配膳している。水分量も、一日1400mlを確保できるよう配慮している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、対応できるようにしている。手洗いの徹底や、消毒などに努めている。また、病院受診時のマスクの着用や、外出後の手洗いうがいの励行など行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○食材の管理 79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日まな板とフキンの消毒を行っている。食材の保存にも留意し、賞味期限を確認し、期限内で使用するようし、期限の過ぎたものは処分している。また、検食の保管もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム周辺の花壇に様々な花を植え、景観に配慮している。また、テーブルや椅子を設置し、利用できるようしている。		
○居心地のよい共用空間づくり 81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	窓際に手作りの風鈴をつけたり、花や観葉植物を置き、居心地の良い環境を整えている。また、玄関の生け花や、廊下に絵画を飾っている。居間には、手作りのカレンダーにて季節のイラストを書き入れたり、季節感を感じていただけるよう配慮している。		
○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	小上がりや廊下コーナーにソファを置いて、入居者同士で過ごしていただいたり、一人でくつろいでいただけるスペースを作っている。		
○居心地よく過ごせる居室の配慮 83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、本人と家族と相談し、今まで使っていた馴染みの家具等を、居室内に設置できるよう配慮している。		
○換気・空調の配慮 84 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内の環境を常に注意し、換気を行っている。トイレ内の臭いは、換気扇の使用や消臭剤を使用している。汚物入れには新聞紙を入れ、消臭に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者が安全に過ごせるよう、廊下やトイレや浴室に手すりを設置している。一人ひとりの歩行状態に合わせ、自立した生活が送ることができている。</p>		
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの表示を大きくしたり、浴室には暖簾をかけたり、自室に表札をかけ、分かりやすく混乱しないよう配慮している。</p>		
<p>87 ○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホーム周辺に花壇や畑を作り、ここで楽しく活動できるよう配慮している。また、テーブルや椅子も設置し、のんびりと過ごすことが出来る環境を整えている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者の希望を聞きながら、外出行事に力を入れている。最近は地域行事への参加も増えてきた。